

新任医師 紹介



内科
矢田 雄介

2007年に新潟大学を卒業、初期研修を経て新潟大学腎臓原病内科に入局。主に血液透析を受けている患者さまや透析前の段階の腎不全の患者さま、腎機能が正常でも血尿やたんぱく尿が持続している慢性腎臓病の方々などの診療に携わってきました。

これまでの経験を生かしつつ、今後も頑張りたいと思っております。よろしくお願いたします。



内科
中野 恵輔

2018年群馬大学を卒業し、新潟大学内分泌代謝内科に入局しました。大学病院、長岡中央総合病院での勤務を経て、2022年4月より木戸病院で勤務させていただいております。

患者さま一人ひとりの生活に合わせた、より最善と思われる医療を提供していきたいと考えております。糖尿病、甲状腺疾患、そのほかホルモン疾患を中心に広く皆さまのお役に立てるよう努めて参ります。



内科
渡辺 顕

2018年東北大学医学部卒業。2020年から新潟市民病院内科専攻医として働かせていただき、今年度から木戸病院に赴任となりました。渡辺顕と申します。循環器内科としての職務が主体となりますが、地域に根ざした医療を提供できるように、分かりやすい説明や診療を心がけていこうと思っております。よろしくお願いたします。



小児科
田所 宏啓

2018年に新潟大学を卒業し、その後新潟大学小児科に入局しました。お子さんとご家族に寄り添い、元気に生活できるようにサポートしていきたいと考えています。地域の皆さんと寄り添っていければと思います。よろしくお願いたします。



皮膚科
武居 留美

2017年に新潟大学を卒業、2020年4月から2021年3月まで木戸病院に勤務し、今年4月から再度赴任しました。開院日は毎日外来を担当しております。

皮膚の病気はかゆみ、痛みがあることも多く、自身や他人の目にも触れてしまうため、生活の質に大きく影響すると思っております。些細なことでも、ぜひお気軽にご相談ください。よろしくお願いたします。

連載記事

臨床工学科 臨床工学科ってどんなところ？

臨床工学科は、木戸病院3階のMEセンターを基点とし、業務に携わっています。所属職員数は臨床工学技士が8名(男性6名・女性2名)です。

臨床工学技士とは聞きなれない名前だと思いますので、どのような仕事をする職業なのかを初めに説明します。

〈臨床工学技士とは〉

生命維持監視装置を操作し、治療の補助を行い、装置が常に安全に使用できるよう保守点検を行う職種です。

〈臨床工学科のお仕事〉

当院での主な仕事内容は、大きく分けて以下の4部門に分かれています。医療機器の管理を実施し、他職種と連携して安全な医療の提供が出来るよう努めています。

★医療機器管理業務

MEセンターで管理している機器の運用、病院内で使用している医療機器の点検・修理対応等

★血液浄化業務

人工透析室日常業務に加え、特殊療法・透析液管理・透析機器管理

★手術室業務

眼科白内障手術・硝子体手術、整形外科関節鏡手術、整形外科自己血回収装置操作、麻酔器使用前点検、その他医療機器点検

★ペースメーカー業務

植込み・電池交換手術対応、検査のための設定変更、ペースメーカー外来対応、遠隔モニタリングの管理



人工透析室で、透析患者さまの機器管理を行っています



MEセンターでは、常に医療機器の状態に細心の注意を払っています

ほほえみだより

介護老人保健施設
ほほえみの里きど

長生きと食事

3 すべての人に
健康と福祉を



施設長 矢田 省吾

ほほえみの里きどは2005年6月1日に開設、この6月で丸17年を迎え、この間多くの人に利用してもらいました。利用者は圧倒的に高齢者が多く、90歳以上の方が6割位を占め、現在100歳超えの方は3人います。超高齢者の特徴の一つが食事を食べられること。多くの人は自分で食べており、100歳以上の人も自分で食べられます。

92歳の男性の方は、大動脈解離という大病を克服し、今年の3月に入所しました。食事は全介助で摂取されるものの、時々誤嚥(ごえん・食物が肺に入ってしまうこと)がありました。言語聴覚士の指導で食事の姿勢を調整し、その後は誤嚥が軽減、食欲が好転し本人の希望でお粥大盛としています。これからも努めて食べて長生きをしてもらいたいものです。



自分の口で食べることが、長生きの秘訣です



介護のプロが、一人ひとりに合わせたお食事を提供します